



「花粉の素材にも違いがあるんですよ？」

**豊岡** 花粉は父が作ったものを使用しています。まだたくさん残っていますからね。細かい「おがくず」にウコンを使って染めてつくられていると思います。

**新開** この花粉は、ガラスを細かくしたものを染めて使っているのですが、黄色が少し明るすぎるんですよ。だから更に絵の具で色をつけています。この利点は色がくすまないので、色が変化しないんです。

**豊岡** 花卉にのりでつけるので、少し色がくすむんですよ。この2つの花粉の中間くらいの色が表現できたらなあって思っているんですよ。

**愛という形**  
それは文化の継承にもつながり、人の心を豊かにさせる

**豊岡** 文化を発展させるためには、心を豊かにさせないといけない。そのためにはどうすれば良いのかは、未だに答えは出てこないんですが、不況と言

われ、景気が悪いこのような時期にこそ心を豊かにしていかなければならないと思っています。

**新開** 梅の造花を作るのは、とても集中力がいるんですね。中学校の生徒たちに教えているのですが、とても集中してくれるんです。集中しないと完成しませんからね。

集中力は、想像力を生み、想像すること「思いやり」を生みます。結果、人間を成長させることができると思うんです。

**豊岡** 「心を豊かにする」「思いやりがある」人間にはとても必要なものだと思います。

**新開** そうですね。

**これからの造花の行く末**

1+1は2じゃない

**新開** 今後、中学校でも梅の造花体験の時間がなくなったらどうしようかと不安になるときがあるんです。前から思っていますが、後継者不足も含めてこの文化をどのように継承していくかが、とても問題です。

**豊岡** これからは、私たち造花をつくる人はもちろん。その他の文化を大事にする人たちとも協力をし

あってやっていけないといけないですね。

**新開** そうですね。そうすれば、さらに発展するかもしれませんね。文化は進化させながら、受け継がないといけないのでしょね。

**豊岡** やっぱ、「やらないと失敗もできない」ですから。

後悔はしたくないですよ。

**新開** 町民の皆さんに知ってほしい思いは、いつまでも変わりません。今後は日本に一つしかない、大津の民芸造花を後世に伝えていくことが今、生きている私たちの務めだと思っています。今日は本当にありがとうございました。

**豊岡** こちらこそ、本当にありがとうございました。



**子どもたちの目に  
造花はどのように映るのでしょうか**

まるで生花のように思える造花。とても素晴らしい芸術品です。熊本県には、たくさん伝統工芸品があります。山鹿灯籠などは皆さんもご存知のことでしょう。しかし、梅の造花の認知度は、山鹿灯籠ほど有名ではありません。

保存会の皆さんも豊岡さんも、警鐘を鳴らしていました。ただ不安をおおるだけじゃなく、希望を込めた警鐘でした。でも、きつと「警鐘」は「継承」へとつながります。造花の素晴らしさを知る人が増え、その意志を継ぐ人も見つかるでしょう。そうすれば、大津町の子どもたちは、梅の造花の歴史と素晴らしさをいつまでも知ることが出来ます。

造花に関わる人は、みんな「愛」がありました。「造花に対する愛情はだれにも負けない」そんな思いを感じました。古里にある文化を愛することの素晴らしさを教えてもらいました。

これからも、暑い夏の季節に大津で地藏祭があり、その祭で梅の造花が披露されていること。このことが、いつまでも続くように願っています。

**特集 継承。そして警鐘**

**大津梅の造花物語 完**

参考資料：「大津町史」「大津覚書」「ひこ大津 梅造り秘話」「25周年記念 大津造り梅」